修郎先生の事件簿2

～就労ビザ専門会社の現場から～

小池雄一氏

出国時の悪徳審査官？！

佐生修郎（さしょう・しゅうろう）は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

大谷翔平　大変だ、大変だ、短期の技術支援で来ていた佐々木君が日本への帰国時、空港出国審査カウンターで罰金を要求された。きちんと短期312就労ビザで就労していたのに。

佐生修郎　あの高度技術を持った侍スーパーバイザーの朗希君だね。凄いスピードだよね、彼の仕事の速度は。

大谷　出国カウンターの審査官から、EPO（ITAS取消処理）を出国前に処理していないから出国はできない。どうしても出国したいのなら俺が助けてやるから罰金をここで払っていけと言われたらしい。

佐生　とんだ悪徳審査官に出会ったようだね。

大谷　ITASにはMERP（MULTIPLE EXIT&REENTRY PERMIT：出再入国許可）が附帯しているから、ITAS期限日前であればいつでも出国できる。そして期限前なら再入国だってできる。加えて、出国後も「不在者EPO（ERP TIDAK KEMBALI）」という処理をすればITASは取り消せるので、国内で事前にEPOせずとも出国できる。

佐生　その理解でよろしい。つまり、今回の審査官の指摘は不当だと言える。レバラン前の1カ月間は、毎年このような不当な摘発が多く発生しているね。

大谷　同様の案件が沢山あるの？

佐生　既に複数件報告されている。例えば、211Bシングルビザで入国し、製造会社を訪問し工場見学した人が、帰国時の出国カウンターで、その活動は312就労ビザを取るべきとITASのサンプルを見せられながら言われ、なかなかパスポートに出国スタンプを捺してもらえなかったという事例もあった。

大谷　それも不当な指摘だね。だって規定には211Bの目的に製造会社訪問って書いてあるもの。製造機械を保守している訳でもないのだから、工場見学くらいはできるハズだよ。

佐生　審査カウンターでパスポートが返却されて来ないと外国人としては不安になるよね。その不安心理を突いて審査官が所謂マウントをとり、あたかもこちらが間違っている様に振る舞われてしまう。また、日本人は礼儀正しく、大声で反論してこないと思われているフシもある。

大谷　悔しいなあ。どう対処したらよいのだろう？

佐生　対処法の正解は無いし、王道も無い。でも、参考例はあるから伝えておこう。

（1）まずは担当官の名札を視て名前を覚える。

（2）何か聞かれても、必要最小限にとどめ、多くを語らない。

（3）こちらからは、搭乗時刻が迫っている旨をアピールする。

（4）こちらから話す時は、いつも最後に「Mr・誰だれ」と担当官の名前を付けて一文を締める。

（5）例えば、担当官がブディさんという名前なら、こんな感じだ。「プリーズ、ギブミー、イグジットスタンプ、アズスーンアズポッシブル、Mr・ブディ（出国スタンプを急いでくれませんか、ブディさん）。」、「マイ、ボーディングタイム、イズ、ベリー、クロース、Mr・ブディ（搭乗時刻が迫っているのですよ、ブディさん）」

大谷　最後に名前を付けることで、こっちは貴方の名前を覚えたよ、何かあったら出るところに出るよという雰囲気を醸し出すのだね。なんだかマンガチックな対処法だね。

佐生　もうひとつ加えるなら、「レット、ミー、チェック、バイ、テレフォン、トゥー、ジャパニーズ、エンバシー、イフ、アイ、アム、ロング、オア、ノット、Mr・ブディ（私が間違っているかどうか、日本大使館に電話で確認させてもらいますね、ブディさん）」と言いながら、鞄の中をゴソゴソとスマホを探っている振りをしていると、出国スタンプを捺してパスポートが返却されカウンターを通過できる。もし、本当に電話をするなら会社の管理部門の人に電話をして現状を報告し指示を仰いでも良いだろう。

大谷　また劇画の世界。

佐生　日本人の良い点の一つとして、どんな相手でもまずリスペクトするよね。それにより、相手が正しい事を言っていると思い込む傾向にある。特に相手が国の役人だったら尚更そうだ。加えて、謙遜の念からか自分が間違っているのかもしれないとすぐに思うこともあるだろう。

大谷　でも、相手の方が不当な場合もあるし、故意に間違った所に誘導している場合もある。つまり、相手の言っている事を頭から正しいと信じてはだめだね。特にインドネシアの空港の出国カウンターでは。

佐生　審査官へのリスペクトは基本だが「リスペクトのし過ぎ」は良くない。

大谷　……。

佐生　WBC決勝戦の試合前の円陣。そこで数人の有名メジャーリーガーの名前を挙げながら翔平君は激を飛ばしたじゃないか。「憧れるのをやめましょう。」「今日一日だけは彼らへの憧れを捨て、勝つことだけ考えていきましょう」。ジーンと来たよ。

大谷　……。

佐生　それと同じで「出国カウンターの審査官をリスペクトし過ぎるのはやめましょう。リスペクトし過ぎるのではなく、自分の方が正しいと信じ、出国カウンターを通過しましょう」

こいけ・ゆういち　FPCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ビー・エム入社。フジスタッフへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。56歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。

×　×

「修郎先生の事件簿2」は、原則、毎月第1水曜に掲載します。

佐生修郎　心得の条

一　レバラン前の1カ月間は、例年、不当とも思える摘発事例が多発する傾向にある。特に今年は出国カウンターでのトラブルが数多く報告されているので注意すること。

二　スカルノハッタ国際空港には悪徳な出国審査官もいるようなので、リスペクトし過ぎることなく、自分が正しいと信じて対処すること。